

## 和文著作（後藤慎介, Shin G. Goto）

2017年1月7日

### 総説

4. 後藤慎介 2016. ナミハダニの休眠とその誘導機構. 植物防疫 70(3): 15-20.
3. 後藤慎介, 遠藤淳 2015. ナミハダニの光周性機構. 比較生理生化学 32, 109-117.
2. 後藤慎介 2013. 昆虫の光周性に時計遺伝子は関わるか? 昆虫と自然 (10月号) 特集: 昆虫の時間生物学, 最新の進歩, 9-12.
1. 後藤慎介 2011. ショウジョウバエの耐寒性と膜脂質. 低温科学 69, 145-149.

### 著書 (分担)

7. 後藤慎介 2015. 「生物時計が季節を知らせる」(日本比較生理生化学会 編)『研究者が教える動物実験 第1巻 感覚』 pp. 116-119. 共立出版
6. 後藤慎介 2014. 「光周性」(沼田英治 編)『環境 Eco 選書・昆虫の時計』 pp.168-204. 北隆館
5. 後藤慎介 2013. (生理学に関する項目の一部を担当した). 岩波生物学辞典第5版 岩波書店
4. 後藤慎介 2010. 「ショウジョウバエの耐寒性と Hsp」「ショウジョウバエ」「ニクバエ」『昆虫の耐寒性 ―その仕組みと調べ方―』 岡山大学出版会
3. 後藤慎介 2009. 「光周性」「耐寒性」『分子昆虫学』 (神村学・日本典秀・葛西真治・竹内秀明 編) 共立出版
2. 後藤慎介 2008. 「ショウジョウバエの冬への適応と進化」『耐性の昆虫学』 田中誠二・小滝豊美・田中一裕 (編著) 東海大学出版会
1. 後藤慎介 2004「遺伝子から見た耐寒性」『休眠の昆虫学―季節適応の謎』 田中誠二・檜垣守男・小滝豊美 (編著) 東海大学出版会

### 著書 (分担 翻訳)

1. 後藤慎介 2007. 第6章: 温度効果, 第7章: 体温調節, 『動物生理学 [原書第5版] 環境への適応』 クヌート・シュミット=ニールセン (著), 沼田 英治・中嶋 康裕 (監訳)

### その他

5. 池野知子・後藤慎介 2015. 「生物時計で季節を知る」(日本比較生理生化学会 編)『研

究者が教える動物実験 第1巻 感覚』 p.125. 共立出版

4. 後藤慎介 2014. 「マイクロピペットの使い方」「コオロギの交尾行動と闘争行動の観察」「原生動物の生理」(大阪市立大学理学部生物学科編)『生物学実験への招待』 大阪公立大学出版
3. 後藤慎介 2014. 「南極で昆虫のリズムを調べる」「RNA 干渉」(沼田英治 編)『環境Eco 選書・昆虫の時計』 pp.90-91, 192-193. 北隆館
2. 後藤慎介 (分担執筆) 2009. 生きものなんでも相談 (社団法人日本動物学会近畿支部編 OMUP ブックレット No.25). 大阪公立大学出版会.
1. 渡康彦・瀧巖・松井崇明・齋藤治・後藤慎介・田中一裕 2006. 昆虫の羽化リズムにおける温度周期の重要性-土中で蛹化するハエ類を例に- 芦屋大学論叢 43, 119-130.